

本日の内容

1. 第1回選書図書に対する意見交換
2. 図書館からのお知らせ

1. 第1回選書推薦図書一覧

No.	書名
1	ゼロからはじめる病院のPDCA
2	のほほん解剖生理学
3	THE整形内科
4	ゲノム解析は「私」の世界をどう変えるのか?
5	健康格差：不平等な世界への挑戦

No.	推薦理由
1	<p>先日書店で見かけて、気になっておりました。またJMPAの10月新刊ページに載っていることから最新の書籍です。監修の伏見先生は医療情報のご専門で「医療の質」研究や制度設計において、日本をリードされています。この分野の大家である伏見先生たちによる「医療の質」の解説に加えて、質の「見える化」を実践できる構成である本書を今回レビューしたいと思います。このレビューによって、多くの医療系学生が漠然と抱いている「医療の質」という概念を再考するキッカケとなれば幸いです。また「医療の質」を体系的にまとめた書籍は依然として少ないので、本書を推薦いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療の質」を様々な指標で抽象的俯瞰的に分析するという考え方は、現場で実際に医療に携わる人ほどかえってピンと来ていないという面がある。</li> <li>・漠然と「医療の質」という言葉を使うことはあってもその内容まで具体的にイメージできている人は多くはないと思う。特に1章と2章は医学部に所属する全ての人に読んで欲しい。</li> <li>・実際に手にとって本を読むための動機付けになるようなつかみがあるとよいと思う。</li> </ul>
2	<p>題名からもお分かりのように、お堅い雰囲気解剖生理学入門書とは全く違う、フルカラーでイラストたっぷりの本です。避けては通れない解剖生理学が理解できなくて国試や定期試験、実習が苦痛にしか感じない特に看護学生さんには、ぜひ読んでほしい本です。文章での説明というよりもイラストでの説明が多く、著者のセンス抜群のおやしギャグで暗記もしやすくなるので、気軽な気持ちで読めます。また、オンラインの動画解説も配信されています。ゴロ合わせ、時には暗記の歌、クイズも掲載されていて解剖生理学アレルギーの学生さんでも、スラスラ読めて、本格的な国試の勉強も苦にならなくなると思います。私は、死にそうになりながら国試の勉強を始めた国試受験の1か月前に見つけて、救われました。大まかな解説のみなので、この1冊で国試対策が十分とは言い難いですが、国試に向けてのウォーミングアップには最適だと思います。国試受験生以外の学生さんでも解剖生理学で困っている方に、おすすめです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦理由の通り、実際に国試で勉強するにあたってどのように使ったかというエピソードがあるとよいと思う。</li> <li>・解剖学の教科書はアトラスやイラストによるものなど、様々な種類があって人によって向き不向きもある。どういう人におススメかわかるとよりアピールになるのでは。</li> </ul>

No.	推薦理由
3	<p>ぶっちゃけ紹介してもらって知りました。同級生の整形外科医も知っていて、その道では良書で知られているそうです。</p> <p>具体的な推薦理由は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 題と絵が印象的(で手にとる人多そう)</li> <li>2. プライマリケア医学に分類されている。 プライマリケア医学/総合診療医のニーズが高い昨今では全ての医師が読者になり得る(読者層が広そう)</li> <li>3. 評価の高かった雑誌特集の書籍化</li> <li>4. 自分は脳外科出身の脊椎外科医であり、整形外科の一般臨床の知見は興味が高いです。</li> </ol> <hr/> <p>・(整形外科ではなく)『整形「内科」』という違和感があって印象に残るタイトルが特徴。</p> <p>・例えば印象的なタイトルを切り口にレビューを書くという方法がありだと思ふ。(「内科もエコーの時代になった!」というようなイメージ)</p>
4	<p>ゲノム解析の著しい進歩によって医療も大きく変化している時代です。こういったテクノロジーの進歩に対して、医学を学ぶ学生も、知り考える機会がひつようであると考えます。しかし、こういったゲノムに関するテクノロジーに関する書籍は医学図書館にはほとんど所蔵されておらず、理学部や農学部などに多いように思われました。これからの医療と切り離すことのできない話題であり、より身近に考えていくためには医学図書館にもこういった類の図書がひつようなのではないかと考え、推薦させていただきます。</p> <hr/> <p>・ゲノム医療に関してはたくさんの類書がある。例えば、最近出た本では『CRISPR (クリスパー) 究極の遺伝子編集技術の発見』(文芸春秋, 2017.10)など。色々な類書と比較して特にこの本のおススメ部分を強調するようなアプローチができると思う。</p> <p>・著者は京大出身(2010年農学部卒業)でベンチャー企業を立ち上げて活動している。近接分野の先輩が学術以外のフィールドで活動しているというところに注目する書き方もできる。</p>
5	<p>著者のマイケル・マーモットは、WHOの「健康の社会的決定要因委員会」の委員長、世界医師会会長などを歴任されたお方。そんな方が「健康格差」をどう論じておられるのか、とても興味を持ちました。学部の勉強をしていると、ついつい視野が狭くなるなど感じることもしばしば。単に「医療」だけでなく、教育や環境などの社会的要因を絡めた視点は、私たちには必要なと思います。偉い方の著書で、テーマも難しそうではありますが、ユーモアたっぷりに書かれた本のようなので、読みやすさにも期待しています。</p> <hr/> <p>・未読だが案外読むのが大変そうな本かもしれない。</p> <p>・学術文献ではなく広く一般向けに書かれた本なので、健康格差はこんなところにもあんなところにも表れているというような内容ではないか。ざっと読んで印象に残った部分を書いてみるとよいのでは。</p> <p>・身近に感じる「健康格差」についてこの本ではどのように取り扱っているのかというアプローチはどうか。例えば、日本の環境だと教育に関して身の回りで「健康格差」を感じることはないか。</p>

## 2. 図書館からのお知らせ

### ・レビュー提出〆切について

- 学部4回生以外の方

→【12月20日(水)】

- 学部4回生の方

→【12月27日(水)】

※期日内提出が難しそうであれば個別に相談

※未推薦の方については別途相談

### ・第2回選書(第3回ミーティング)のスケジュールについて

- 今回の推薦図書のレビュー完成・展示が年明け早々の予定

- 年明け以降に各自の予定(国試や研究活動)に障りのない範囲で新しく図書を推薦する  
(可能なようであれば年明けを待たずに推薦してもよい)

- 選書にあまり時間をとることができなさそうであれば、以前にMLに投稿して  
いただいた「おススメ図書リスト」から関心のあるものを選んで推薦してもよい。

## 3. その他

・レビューに関しては、ただ担当のものを書いて公開するだけではなく色々と展開できる可能性があると思う。(1つの本に対して他の委員のレビューを受けて別の委員が別の角度からレビューする、SNSで発信して外部からのリアクションを求める、など)

・すぐに実現できないかもしれないが、そのような相互作用的な展開もチャンスがあればやってみたい。